ADVANCED CLUB MIXER

CE

注意！
火事や感電の原因になるので、本機器を水や液体に触れないようにしてください。また。本機器を分解しないでください。

www.reloop.com

Reloop Trademark
Global Distribution GmbH
Schuckertstr. 28
48153 Muenster / Germany
Schuckertstr. 28

www.dirigent.jp

株式会社銀座十字屋
ディリゲント事業部

目次

製品サポートについて

本書をご覧いただいても解決できない問題がございましたら、Dirigent カ スタマーサポートまでご連絡ください。なお、サポート・サービスをご利用いただくためには、Dirigent へのユーザー登録が必要です。登録の確認ができない場合、サポート・サービスをご利用いただくことができません。予めご了承ください。

■Dirigentへのご登録方法：
Dirigentサポートページにアクセスし、Reloopオンライン登録フォームよりご登録をお願いいたします。

■Dirigentカスタマーサポート：
電話でお問い合わせの際は、Dirigent へのご登録確認のため、お名前・製品名・製品シリアルナンバーをお伺いいたします。また、メールでのお問い合わせは、Dirigent サポートサイトのお問い合わせフォームをご利用ください。

電話番号：03-5159-1822（受付時間：平日10:30〜17:00）
休業日：土日祝日および弊社特別休業日
Dirigentサポートサイト：https://www.dirigent.jp/support/

この度は、”Reloop RMX-80”をお買い上げいただき誠にありがとうございます。並びに弊社のDJテクノロジーに信頼を置いていただきありがとうございます。本機を使用する前に、この取扱説明書をよく読み、すべての指示に従って操作いただけますようお願いいたします。パッケージからReloop RMX-80 を取り出し、製品を使用する前に製品の破損や欠品をが無いことをご確認ください。電源ケーブルや、筐体に損傷があった場合は、製品を使用せずに、ご購入いただいた販売店にご連絡ください。

安全上の注意

警告!
電源ケーブル(100-240 V、50/60Hz)を取り扱うときは十分にご注意ください。この定格電圧は深刻な感電につながる可能性があります。取扱説明書の定める使用方法を遵守されない場合の損害はいかなる補償請求も対 象外とします。メーカーは、資産に対する損害、または安全上の指示を遵守しない不適切な使用による人身損 害の責任を負いません。

- 本製品は完全な状態で工場を出荷しています。この状態を維持してリスクのないオペレーションを確実にするためにユーザーは、この取扱説明書に記載されている安全に関する指示と警告を読む必要があります。

- 安全性と認可(CE)の理由から、本製品の未許可の改造、修正は禁止されています。本製品の未許可の 修正に起因する損害の場合、どのような保証請求も除外される点にご注意ください。

- 外部から交換可能な消耗部品を除いて、製品の内部はメンテナンスを必要とするパーツはありません。 資格を有するスタッフがメンテナンスを行なう以外は、保証が適用されません。

- ヒューズは、同じクラスのヒューズと交換しなければなりません。

- 本製品を完全にセットアップしたあとに、電源が供給するだけの状態であることを確認してください。常にメインプラグを最後に接続してください。製品に電源ケーブルを接続する際にメインスイッチが「オフ」の位置にあることを確認してください。

- 規格に準拠したケーブルのみをご使用ください。すべてのジャックやネジが締められ、正しく接続されていることを確認してください。ご不明な点がありましたら、お買い上げの販売店にご確認ください。

- 本製品をセッティングする際に、ケーブルが鋭い物によって押しつぶされ、損害を受けないようにご注意ください。

- ケーブルが他のケーブルと接触しないようにご注意ください。電源ケーブルを接続する際は、十分にご注意ください。濡れた手でこれらのパーツに決して触れないでください。

- 電源ケーブルは、耐震性のある電源アウトレットに接続してください。使用可能な唯一の電源サプライポイントは、公共の電源供給ネットワークの仕様に適合したアウトレットです。

- 使用しない場合、また掃除を行う前には本製品を電源アウトレットから外してください。その際、必ずケーブルのプラグを持つようにしてください。ケーブルを持って引き抜かないようにしてください。

- 本製品は、水平の安定した不燃性の高い場所に設置してください。

- 本製品を設置し、操作を行う場合には、激しい衝撃を与えないでください。

- 設置する場所は、本製品が過度の熱、湿度、ほこりにさらされない場所に設置してください。ケーブルが煩雑に置かれていないことを確認してください。上記を守れない場合、使用者を危険にさらす場合があります。

- 本製品の上に液体をこぼしやすい容器を置かないでください。万が一、液体が本製品内にこぼれた場合、直ちに電源プラグを抜いてください。再度使用する場合には、資格のあるサービス技術者によって確認された製品をご使用ください。製品内部への液体の混入による損害は保証の対象外となります。

- 極端な高温(35°C以上)、または極端な低温(5°C以下)で本製品を使用しないでください。直射日光、ラジエーター、オーブン(閉じられた車内も含みます)などの熱源に直接触れるような場所に本製品を置かないでください。冷却ファンや通気孔をふさがないでください。常に十分な換気を確保してください。

- 本製品は、暖かい環境から冷えた環境に移動した直後に動作させないでください。この状況で起こる結露によって故障の原因となります。周囲の温度に達するまで電源を入れずにお待ちください。

- コントロールやスイッチには、クリーニング剤や潤滑油などのスプレーを使用しないでください。本製品は湿っ た布できれいに拭きとるだけにしてください。クリーニングのために石油ベースの溶剤や、洗浄液を使用しないてください。

- 本製品を移動や、輸送する際、購入時に梱包されていた箱をご使用ください。

- 本機の操作を開始するときに、アンプのフェーダーや、ボリュームコントロールが最小レベルになっていることを確認してください。パワード・スピーカーの電源スイッチは“オフ”であることを確認してください。一時的な 影響で起こる場合のあるショットノイズよりスピーカー等の機器の破損を避けるために 8 ~ 10 秒間程度待 ってからボリュームを上げてください。

- 電気を供給される本製品は小さなお子様の手の届かない場所に保管してください。また、お子様のいる環境 下でのご使用には十分ご注意ください。

- 商業的な施設でプロフェッショナルな組織のオーガナイズによる事故防止のための規則を遵守しなければな りません。

- 学校、トレーニング施設、趣味、ワークショップなどで本製品を使用する際は、訓練されたスタッフの責任を持 って監視する必要があります。

- 後に質問や問題が発生した場合、参照するためにこの取扱説明書を安全な場所に保管してください。

規則に従った使用方法について

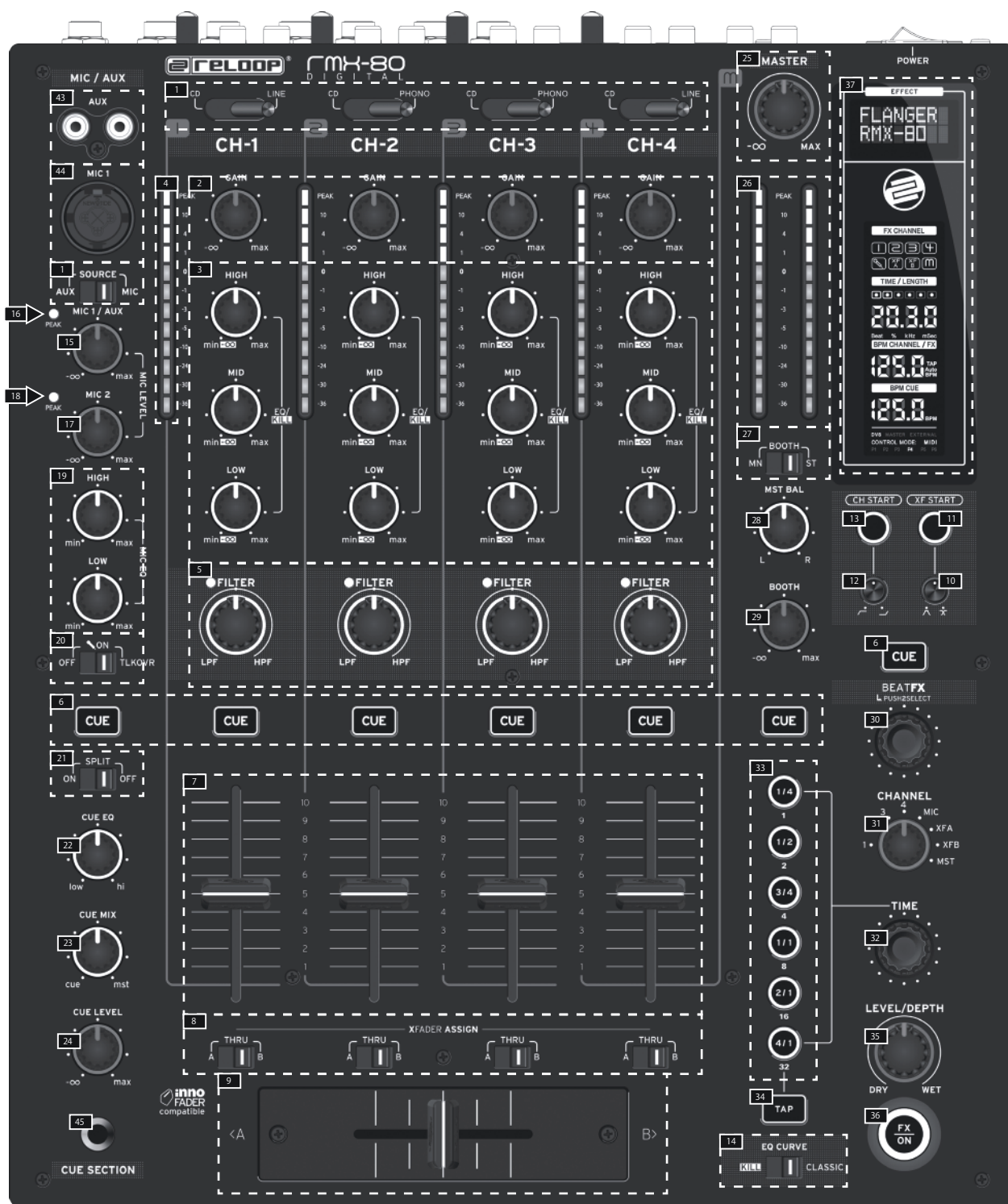
- 本製品は、オーディオ信号を入力、ミキシングするための DJ ミキサーです。本製品は、入力ソースとオーディオケーブルで接続されなければなりません。
- 本製品は、付属の電源アダプタを介して 100~240V、60/50Hz の AC 電源に接続するために認可されており、室内使用専用に設計されています。
- 取扱説明書に記載されている目的以外のために本製品を使用する際、製品に損害が起こる場合があり、それ は保証の対象外となります。また、指定した目的に準拠しない使用方法ではサーキットのショート、火災、電気 ショックなど、危険を伴う場合があります。
- メーカーによって決められているシリアルナンバーは、保証の権利を証明するために大切に保管してください。

メンテナンス

定期的に電源ケーブル、またはケースへの損害、ならびに本体のパーツ (ノブ、スライダーやフェーダー)、製 品への取り付けに関する技術的な安全をチェックしてください。
安全な操作が可能ではないと仮定される状況下では、直ちに本製品の使用をやめ、安全を確保してください。常に電源プラグをアウトレットから外してください。
本製品が、好ましくない状況下、または輸送ストレス後の長期間保存によりデバイスが機能していない、また は目に見える欠陥を負った場合、安全な操作は不可能だと仮定しなければなりません。

1.概要

1.1 外観

1..1.1 トップパネル

1.1.2 ディスプレイ

1.2 各部の名称

1.2.1 入力チャンネル

1. インプット・セレクト(Phono / CD / Line)
2. ゲイン
3. 3バンド EQ
4. レベルメーター（入力信号）
5. フィルター・ノブ
6. CUEボタン(モニタリング)
7. ボリューム・フェーダー
8. クロスフェーダー・アサイン・スイッチ
9. クロスフェーダー
10. クロスフェーダー・カーブ調整
11. クロスフェーダー・スタート・スイッチ
12. ボリュームフェーダー・カーブ調整
13. フェーダー・スタート・スイッチ
14. EQカーブ・スイッチ

1.2.2 MICチャンネル

15. Mic 1 / AUX ボリューム
16. ピークLED（Mic 1 /AUX)
17. Mix 2 ボリューム
18. ピークLED（Mic 2 /AUX)
19. 2バンドEQ（Mic 1 / 2)
20. Mic オン/オフ・スイッチ

1.2.3 ヘッドフォン・セクション

21. スプリット・スイッチ
22. モニタリングEQ
23. CUE / MIXノブ
24. CUEボリューム（モニタリング）

1.2.4 マスター・セクション

25. マスター・ボリューム
26. マスター出力レベルメーター
27. モノラル/ステレオ切替・スイッチ（ブース出力）
28. バランス・ノブ（マスター出力）
29. ブース・ボリューム

1.2.5 エフェクト・セクション

30. FX選択・ノブ
31. FXチャンネル・セレクト
32. タイム・エンコーダー/ タップ・ボタン(BPM)
33. タイム・バー・ボタン（＋)
34. タイム・バー・ボタン（－）
35. FXレベル/デプス・ノブ
36. FXオン / オフ・スイッチ
37. ディスプレイ

1.2.6 ディスプレイ・セクション

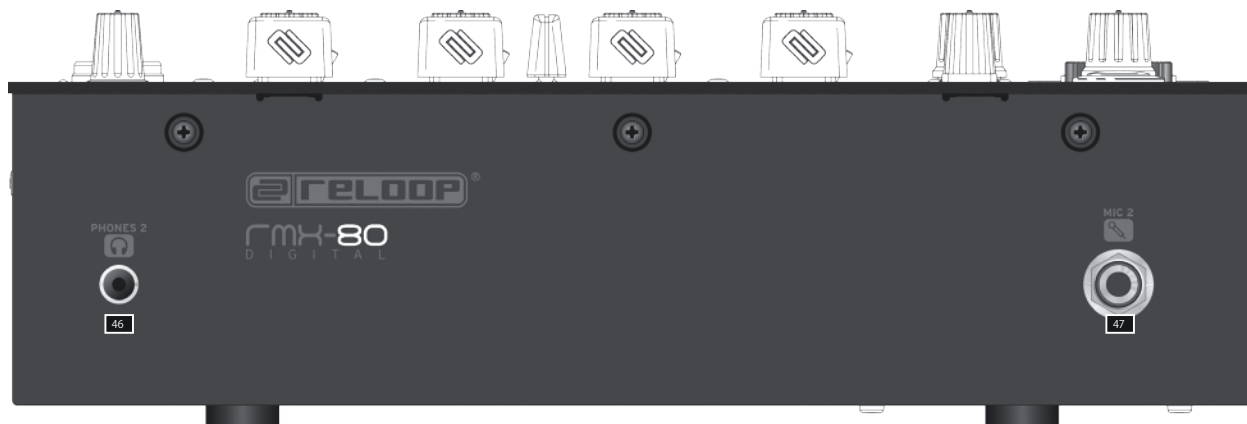
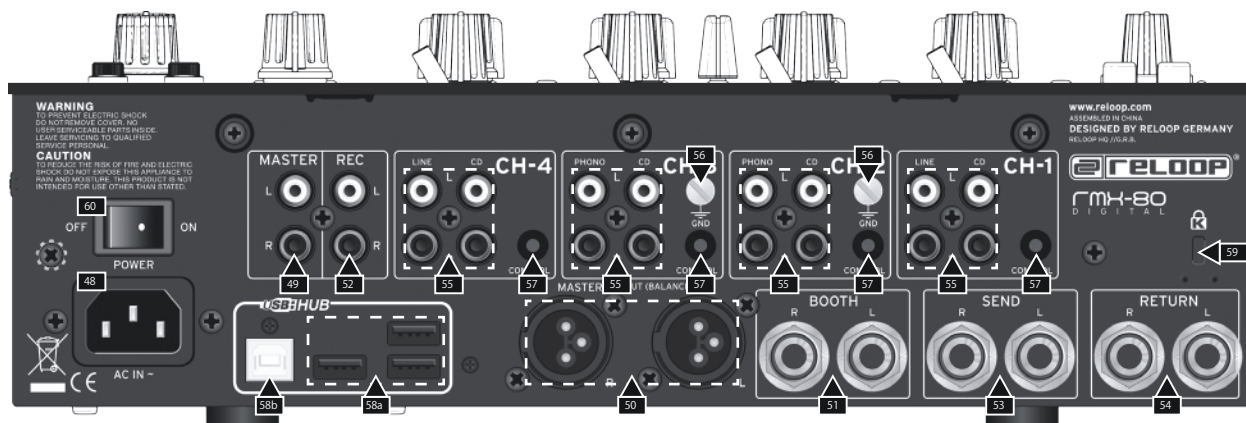
38. FX・ディスプレイ
39. FXチャンネル・ディスプレイ
40 FXタイム・ディスプレイ
41. FX BPM・インジケーター
42. CUE BPM・インジケーター

1.2.7 接続部

43. AUX入力（RCAピン)
44. MIC 1入力（標準フォン / XLR）
45. ヘッドフォン出力端子1（6.3mm）
46. ヘッドフォン出力端子2（3.5mm）
47. MIC 2入力（標準フォン）
48. 電源ケーブル入力端子
49. マスター出力端子（RCAピン)
50. マスター出力端子（XLR)
51. ブース出力端子（標準フォン）
52. REC出力端子（RCAピン)
53. Send出力端子（RCAピン)
54. Return出力端子（RCAピン)
55. チャンネル入力端子（RCAピン)
56. アース端子
57. フェーダー・スタート入力端子
58a. USB A 入力端子
58b. USB B 入力端子
59. 盗難防止ワイヤー接続
59. 電源オン/オフ・スイッチ

1.1.3 前面

1.1.4 背面

日本語マニュアル

1.3 接続部の説明

1.3.1 LINE入力
チャンネル 1 - 4に、LINE出力（CDプレイヤー、DJコントローラー等）のソースを接続します。- 55 -

1.3.2 PHONO入力
チャンネル 2 -3 に PHONO出力（ターンテーブル）の機器を接続します。 - 56 -
機器によっては必ずアース端子 - 52 - にアース線を接続してください。

1.3.3 マイク入力
マイクを Mic 12 入力 - 447 - に入力します。

1.3.4 ヘッドフォン
ヘッドフォンをヘッドフォン出力端子 - 45 - または - 46 - を接続します。

1.3.5 外部エフェクトデバイス
外部エフェクト機器の出力端子を Return - 54 - に、入力端子をSend - 53 - にそれぞれケーブルで接続します。

1.3.6 フェーダー・スタート
CDプレイヤーのフェーダースタート・ケーブルをフェーダースタート入力端子 - 57 - に接続します。

1.3.7 マスター出力
マスター出力 - 49 - (RCAピン) または - 50 - (XLR) にオーディオケーブルを接続し、サウンドシステムと接続します。

1.3.8 ブース出力
ブース出力 - 50 - にオーディオケーブル（標準フォン）を接続し、モニタリングシステムと接続します。

1.3.9 REC出力
REC出力端子 - 52 -にレコーディング機器と オーディオケーブル（RCAピン）を接続します。信号レベルはマスター出力とは独立しています。

1.3.10 電源入力
付属の電源ケーブルを 電源ケーブル入力端子 - 48 - に接続します。

1.3.11 USB接続ポート
コンピュータとUSB B 入力端子 - 58b - と接続します。
USB A 入力端子 - 58a - はUSBハブとして機能します。

2 基本操作

2.1 電源のON/OFF
ボリューム・フェーダーや外部アンプ、スピーカーの音声が下がっていることを確認して、電源スイッチ - 60 - を入れます。

2.2 入力の選択
インプット・セレクト - 1 - で利用する音源ソースを選択します。

2.3 ゲイン
音源ソースを再生し、ゲイン - 2 - を回します。レベルメーター - 4 - が赤色にならないように調整します。
Mic / AUX ボリューム - 15 / 17 - の場合は、ピークLED - 16 / 18 - が点灯しないように調整します。

2.4 EQ（イコライザー）
3バンドEQ - 3 - ノブを使って、ch1 - ch4の音質を 高域(HIGH)、中域（MID）、低域（LOW）で調整します。

2.5 フィルター
フィルター・ノブ - 5 - を使って、ch1 - ch4にフィルターを適用します。12時の状態でフィルターが無効になります。
時計回りでハイパス・フィルター、反時計回りでローパス・フィルターになります。

2.6 ボリューム・フェーダー
ボリューム・フェーダー -7 - を使って、ch1 - ch4の出力する音量を調整します。ボリューム・フェーダーのカーブは カーブ調整 - 12 - を使って調整します。
12時の状態がフェーダーと音量が同期した状態になります。

2.7 クロス・フェーダー
クロス・フェーダー - 9 - は ch1 / ch2のデッキ間をフェードすることができます。クロスフェーダー・アサイン・スイッチ - 8 - で各chのクロスフェーダーへの割当を設定できます。
カーブ調整 - 10 - を使って、フェーダーのカーブを調整することができます。スクラッチプレイを行うは、左回り。ロングミックスを行う場合は右回りがよいでしょう。
尚、本機はReloop RMX Inno Faderに対応しているので、スクラッチプレイを多用される方は RMX Inno Faderへの交換をお勧めします。

注意：THRUが選択されているときは、クロスフェーダーは割当てられません。

2.8フェーダースタート / クロス・フェーダースタート
対応するCDプレイヤーをお持ちの場合は、専用ケーブルを 端子 - 9 - または - 7 - に接続し、スイッチ - 13 - または -11 - が有効になっているときに、フェーダースタート/クロスフェーダー・スタートが開始されます。

クロス・フェーダースタート：
クロスフェーダーを左に切ってある状態では、クロスフェーダー “A” にアサインされたCDプレイヤーが再生され、”B”に接続されたCDプレイヤーはキューポイント待機または停止します。
クロスフェーダーを右に切ってある状態では、クロスフェーダー “A” にアサインされたCDプレイヤーが再生され、”A”に接続されたCDプレイヤーはキューポイント待機または停止します。

フェーダースタート：
ボリューム・フェーダーを一番下に切ると、CDプレイヤーがキューポイント待機または停止します。
ボリューム・フェーダーを上に切ると、CDプレイヤーが再生します。

注意：CDプレイヤーによって、フェーダースタート機能の使い方は様々ですので、それぞれのマニュアルもご参考ください。

2.9 MIC / AUX
Micオン/オフ・スイッチ- 20 - で、Mic入力に接続したマイク入力信号を有効します。ボリュームはMix / Auxボリューム - 15 - / - 17 - で調整することができます。

2.10 モニタリング
CUE ボタン - 6 - を押すと、選択したチャンネルのモニタリングをします。CUE / MIX - 23 - のノブで、マスター出力とCUEボタンを押したチャンネルの音量バランスを調整します。左方向に振ると選択されたチャンネルの信号がヘッドフォンに出力され、右方向に振るとマスター出力の信号がヘッドフォンに出力されます。ミックスされる結果を予め試聴する場合は、ノブを12時方向にすると良いでしょう。
CUE EQ - 22 - でヘッドフォンの音質を調整できます。

2.11 マスター・セクション
マスターボリューム - 25 - で本機から出力される最終的な音量を調整します。マスター出力レベルメーター -26 - で赤色の範囲まで出力されないように調整すると良いでしょう。
バランス・ノブ - 28 - でマスター出力の左右のバランスを調整します。ブースボリューム - 20 - でDJブース内の音量を調整します。

注意：Rec出力 - 52 - にはマスターボリューム -25-、ブースボリューム-29-は影響しません。

3 エフェクト・ユニット

3.1 概要

本機には下記のDSPエフェクトが搭載されています。パラメータは LCDディスプレイ - 37 - に表示されさます。
Flanger、Delay、Echo、Reverb、Transformer、Pitch Shift、Loop Roll、Reverse Loop、Noise、Bit crusher、Gate、Tape Delay、Send/Return

3.2 エフェクトの選択、ルーティング

FX選択・ノブ - 30 - で 任意のエフェクトを選択します。選択されると同時に有効状態になります。
FXチャンネル・セレクト - 31 - で、エフェクトを割当てるチャンネルを(1、2、3、4、Mic、CF A、CF B、マスター）選択します。
FXチャンネル・ディスプレイ - 38 - にエフェクトが割当てているチャンネルを表示します。
エフェクトを実際に適用するには、FXオン/オフ・スイッチ - 36 - を押し、FXレベル/デプス・ノブ - 35 -で原音とエフェクト音を調整します。
いくつかのエフェクト・パラメーターはタイム・エンコーダー / タップ・ボタン - 32 - で調整するか、タイム・バー・ボタン - 33 - / - 34 -で調整することができます。
パラメーターは ディスプレイ部分に表示されます。

3.3 エフェクターの種類

3.3.1 FLANGER　２つの音声信号の時間を微妙にずらすことで、ジェットサウンドを得ます。

レベル/デプス：原音とエフェクト音の比率を設定します。
タイム・エンコーダー：タイムラグをミリ秒単位で調整。ボタンを押し続けると、50ミリ秒ずつ調整ができます。
タイム・バー・ボタン：拍単位でタイムラグを調整します。

3.3.2 DELAY　原音に対して、エフェクト音を遅らせます。

レベル/デプス：原音とエフェクト音の比率を設定します。
タイム・エンコーダー：タイムラグをミリ秒単位で調整。ボタンを押し続けると、50ミリ秒ずつ調整ができます。
タイム・バー・ボタン：拍単位でタイムラグを調整します。

3.3.3 ECHO　原音に対して、エフェクト音を遅らせて、山びこの様な効果を得ます。

レベル/デプス：原音とエフェクト音の比率を設定します。
タイム・エンコーダー：タイムラグをミリ秒単位で調整。ボタンを押し続けると、50ミリ秒ずつ調整ができます。
タイム・バー・ボタン：拍単位でタイムラグを調整します。

3.3.4 REVERB　原音に対して、残響を加えます。

レベル/デプス：原音とエフェクト音の比率を設定します。
タイム・エンコーダー：残響をシミュレートするルームのサイズを調整します。
タイム・バー・ボタン：仮想のリバーブ・ルームサイズを選択します。

3.3.5 TRANSOFRMER　リズミカルに音声をフェード・イン/アウトします。

レベル/デプス：原音とエフェクト音の比率を設定します。100%にすると原音のみになります。
タイム・エンコーダー：音声のフェード・イン/アウトを調節します。
タイム・バー・ボタン：フェード・イン/アウトのタイムラグを拍単位で調整します。

3.3.6 PITCH SHIFT　原音に対して、音程を変更します。

レベル/デプス：このエフェクトでは使用できません。
タイム・エンコーダー：音程を調整します。ボタンを押し続けると、音程をリセットします。
タイム・バー・ボタン：1-1 の時に原音と同じ音程。ボタンを押していくことで、25段階の音程に調整ができます。

3.3.7 LOOP ROLL　予め設定された長さでループ(繰り返し）を作成します。

レベル/デプス：原音とエフェクト音の比率を設定します。100%にすると原音のみになります。
タイム・エンコーダー：ループの長さを1ミリ秒単位で調整します。
タイム・バー・ボタン：拍単位でループを調整します。

3.3.8 REVESE LOOP　予め設定された長さで逆再生（リバース）のループ(繰り返し）を作成します。

レベル/デプス：原音とエフェクト音の比率を設定します。100%にすると原音のみになります。
タイム・エンコーダー：ループの長さを1ミリ秒単位で調整します。
タイム・バー・ボタン：拍単位でループを調整します。

3.3.9 NOISE　ノイズを加えます。

レベル/デプス：ノイズ量を調整します。
タイム・エンコーダー：LFOの速度を1ミリ秒単位で調整し、揺らぎを得ます。
タイム・バー・ボタン：1-4 の時にLFOが働かない状態。ボタンを押していくことで、LFOの速度を調整します。

3.3.10 BIT CRUSHER　原音を破壊して、意図的にチープなサウンドにします。

レベル/デプス：原音とエフェクト音の比率を調整します。
タイム・エンコーダー：音質を - 100 ～ + 100で調整します。
タイム・バー・ボタン：音質を 一定の単位で - 100 ～ + 100で調整します。

3.3.11 GATE　入力される信号レベルによって、ブツ切りの様な効果を得ます。

レベル/デプス：原音とエフェクト音の比率を調整します。
タイム・エンコーダー：エフェクトが掛かり始める値（閾値）を細かく調整します。
タイム・バー・ボタン：エフェクトが掛かり始める値（閾値）を右図の単位で調整します。

1-4 → -2dB
1-2 → -3dB
3-4 → -4dB
1-1 → -6dB
2-1 → 10dB
4-1 → 20dB

3.3.12 TAPE DELAY　テープディレイの効果を再現します。

レベル/デプス：原音とエフェクト音の比率を調整します。
タイム・エンコーダー：ピッチの量を -100 ～ +100 の間で調整します。
タイム・バー・ボタン：徐々にピッチの量を -100 ～ +100 の間で調整します。

3.3.13 SEND/RETURN　SEND出力 - 53 -、RETURN入力 - 54 - に接続した外部エフェクターの使用する際に利用します。

レベル/デプス：原音とエフェクト音の比率を調整します。
タイム・エンコーダー：使用しません。
タイム・バー・ボタン：使用しません。

4 ビート・カウンター

本機には2つのビート・カウンターが搭載されています。

4.1 CUE ビート・カウンター

各チャンネルに入力された信号のビートを計測。Cueボタン - 6 - を押すと有効になります。
計測された結果は CUE BPM・インジケーター - 41 - に表示されます。

4.2 チャンネル/エフェクト ビート・カウンター

自動または手動の2つの方法でトラックの速度を決定します。
タップ・ボタン - 32 - をビートに合わせて4回タップすると計測ができます。

注意：本機のビート・カウンターはBPMが 80 から 160 に最適化されていますが、自動BPM計測を行う際にごく稀に BPM80を160、BPM70 を 140と計測することがあります。このような場合はタップボタンを使った手動での計測を行ってください。

5 セットアップ・ユーティリティ

5.1 メニューの構造

セットアップメニューを表示するには、電源を落とし、クロスフェーダー・スタート・スイッチ -11 - とフェーダー・スタート・スイッチ - 13 - を押しながら、電源を投入します。

FXディスプレイ- 38 - に**「MASTER」**と表示されます。

タイムエンコーダー・ノブ - 30 - を回すと、各メニューを表示することができるので、調整したい項目が表示されたら、タイムエンコーダー・ボタン - 30 - を押します。

5.2 各メニューの説明

5.2.1 MASTER

マスター音声出力を「Stereo（ステレオ）」または「Mono（モノラル）」から選択することができます。タイムエンコーダー・ノブ/ボタン - 30 - を回し、決定する場合には押します。

5.2.2 LIMITER

マスター音声出力信号を、0db、-3db、-6db、-12dbから選択することができます。

5.2.3 CUE SET

モニタリング時の動作を調整します。
SOLO：選択された１つのチャンネルのみをモニタリングします。
MIX：選択された複数のチャンネルをモニタリングします。

5.2.4 TLKOVR（トークオーバー）

Micオン/オフ - 20 - スイッチ動作時の音声出力信号を、-6db、-12db、-18db、-24dbから選択することができます。

5.2.5 ISO XOVR（アイソレーター・クロスオーバー）

接続する機材に合わせて、EQのクロスオーバー帯域を HI または LOWから選択します。

5.2.6 MIC BTH（MICブース）

ON：Mic入力の音声をブース出力に送ります。
OFF：Mic入力の音声をブース出力に送りません。この設定にするとハウリング防止になります。

5.2.7 BTH SRC（ブース・ソース）

ブース出力に送るソースを選択することができます。

5.2.8 LED CHECK

本機の搭載された全てのLEDを点灯し、LED切れが無いかを確認できます。

5.2.9 FACT RST（ファクトリー・リセット）

セットアップ・ユーティリティで設定した状態を工場出荷状態（初期状態）に戻します。

5.2.10 FW UPDT（ファームウェア・アップデート）

ファームウェア・アップデート・モードを有効にします。USBポート-58- とコンピュータをUSBケーブルで接続し、モードを有効にします。本機はコンピュータにUSBデバイスとして認識され、ファームウェア・アップデート・ユーティリティ（PCソフト）からアップデートを送信することができます。

5.2.11 ABOUT

現在のファームウェア・バージョンを表示します。

5.2.12 EXIT

セットアップ・ユーティリティを終了します。

6 技術仕様

名称：	**4チャンネルDJミキサー**
電源：	**AC 100 - 240 V , 50 / 60 Hz**
寸法：	**320 x 107.5 x 382.4 mm (W x D x H)**
重量：	**6.8kg**
入力：	
Line / CD / :	10k ohm / -14dBV (200mV)
Phono：	47k ohm / -50dBV (3.16mV)
Aux：	10k ohm / -14dBV (200mV)
Mic 1：	6.8k ohm / -54dBV (1.99mV),unbalanced
Mic 2：	6.8k ohm / -54dBV (1.99mV)
Return：	10k ohm / -10dBV (316mV) , Level VR at 100%
出力：	
Master：	1k ohm / 0dBV (1V) +/-2dB
Balanced：	600 ohm / 0dBV (1V) +/-2dB
Booth：	600 ohm / 0dBV (1V) +/-2dB
Rec：	1k ohm / -10dBV (316mV) +/-2dB
Send：	1k ohm / -10dBV (316mV) +/-2dB
Phones：	33 ohm / -3dBV (708V) +/-2dB

周波数特性：	20 - 20K Hz（+12dB / < -26dB）
S/N比：	
PHONO：	85 dB
Line：	85 dB
Aux：	85 dB
Mic 1：	92 dB
Mic 2：	92 dB